

静岡市食の安全・安心アクションプラン平成24年度から平成26年度 実績

「評価法について：現時点での進捗状況の評価をする」  
A. 計画以上の進展：定量的な場合は目標値の110%以上の進展、  
又、定量的以外のものは新展開や追加内容があった場合。  
B. 計画通り進展：目標値の90%以上110未満の進展、又、目標内容の実施  
C. 計画通り進展していない：目標値の90%未満の進展、  
又、目標内容の未実施（事業の廃止、休止を除く）

I 食の安全の確保のための施策

体系		事業名	目標値	H24年度		H25年度		H26年度		達成度		担当部署
				実績	解説	実績	解説	実績	解説		解説	
I－1 生産段階における 支援や助言を行います。	(1) 環境にやさしい農業生産を推進 します。	エコファーマーの推進	350人	302人		311人		303人		C. 計画通り進展 していない	エコファーマーの 8割以上を占める お茶農家の再認 定が伸び悩んで いる。	農業政策課
		クリーン農産物産地育成事業	7地区	8地区		9地区		10団体		B. 計画通り進展		農業政策課
	(2) 農政部局と連携し、生産段階で のモニタリング検査(収去検査体 制)を強化します。	鶏卵、蜂蜜の収去検査	16件	蜂蜜 7検体 鶏卵 0検体	H24年度監視指 導計画 畜産物 など(食肉・鶏卵・ 乳・はちみつ等) 19検体。蜂蜜と 鶏卵は1年おきに 実施している。蜂 蜜は7検体だが、 畜産物として19 検体は達成して いる。	蜂蜜 0検体 鶏卵 5検体	H25年度監視指 導計画 畜産物 など(食肉・鶏卵・ 乳・はちみつ等)1 7検体。蜂蜜と鶏 卵は1年おきに実 施している。鶏卵 は5検体だが、畜 産物として17検 体は達成してい る。	蜂蜜 3検体 鶏卵 0検体		B. 計画通り進展	H26年度監視指 導計画 畜産物 など(食肉・鶏卵・ 乳・はちみつ等)1 7検体。蜂蜜と鶏 卵は1年おきに実 施している。蜂蜜 は3検体だが、畜 産物として17検 体は達成してい る。	食品衛生課
I－2 調理・製造・加工段 階における監視指 導を実施します。	(1) 危害分析・重要管理点方式 (HACCP)の導入を実施、支援し ます。	HACCP希望者及び取得者からの相 談・受付・助言	10回	8回	マル総(総合衛生 管理製造過程承 認制度)取得者4 施設×2回	7回	マル総(総合衛生 管理製造過程承 認制度)取得者3 施設×2回、新規 マル総取得希望 者1施設			C. 計画通り進展 していない	マル総取得施設 数、新規希望者 に合わせて実施 している。 今後、管理運営 基準へのHACC P手法の導入によ り、相談が多くな るものと思われ る。	食品衛生課
	(2) 危害分析に基づき、重点監視指 導を実施します。	学校給食の食材の安全確保	継続実施	①各施設9回 ②市街地セン ター：毎週実施(1 6回) 上記以外：指定さ れた週に実施(1 回)	①食材又は料理 の食品検査の実 施 ②11月より提供 した1週間(5日間 分)の学校給食全 体(おかず、ご飯・ パン又は麺、牛 乳、デザート等)に ついて放射性物 質を測定する。静 岡市HPで、測定 値(検出限界値) を公表している。 96回実施	①清水区単独調 理校にて各施設3 検体×3回。その 他各センターにて 10検体程度実施 ②市街地4セン ター：各14回実 施。それ以外の給食 施設：各2回実 施。	①食材又は調理 済み食品の生菌 数・大腸菌群・黄 色ブドウ球菌等 について検査を実 施。 ②提供した5日間 分の学校給食(主 食・副食・牛乳・デ ザート等)につい て放射性物質を 測定。測定結果 は静岡市HPで公 表。	①清水区単独調 理校にて各施設4 検体×2回。その 他各センターにて 10検体程度実施 ②市街地4セン ターで計39回実 施。		B. 計画通り進展		学校給食課
		監視指導計画に基づく監視指導	22,000件	18,932件	H24年度監視指 導計画 18,500件	17,760件	H25年度監視指 導計画 18,500件	16,561件		C. 計画通り進展 していない	監視指導計画に 従い進めている。 当初目標値より 実績が減少した のは、中小規模 の製造業社が減 少したため。大規 模製造業社を中 心に監視している ため、件数は減 少傾向にある	食品衛生課
		大規模食鳥処理場での検査	520回135 万羽	510回121万羽	H24年度監視指 導計画件530回 120万羽	512回107万羽	H25年度監視指 導計画件530回 120万羽	509回109万羽		B. 計画通り進展		食品衛生課

I 食の安全の確保のための施策

体系		事業名	目標値	H24年度		H25年度		H26年度		達成度		担当部署
				実績	解説	実績	解説	実績	解説			
(3) 調理、加工等の従事者に対する衛生講習を充実します。		認定小規模食鳥処理施設での検査	9回	4回	認定小規模食鳥処理施設数5件（うち1件営業休止中）	3回	認定小規模食鳥処理施設数5件（うち1件営業休止中。うち1件営業許可の継続時に監視済み。）	3回	認定小規模食鳥処理施設数5件（うち1件営業休止中。1件は食鳥処理をおこなっていない。）	B. 計画通り進展	監視指導計画に従い進めている。当初目標値より実績は少ないが、認定小規模食鳥処理施設が減少したため。	食品衛生課
		保育園給食関係者研修会	年1回開催	1回 100名参加	公立保育園調理員を対象に、給食室内の運営や手洗い等の衛生管理について研修した	2回 112 名参加	公立保育園調理員を対象に、給食室内の運営や手洗い等の衛生管理などについて、第2回は手洗チェッカーによる手洗い実習を行った。	4回 171名参加	公立保育園調理員を対象に、給食室内の運営や手洗い等の衛生管理について研修した。行った。	A. 計画以上の進展	1回は、正規・非常勤合同の研修。あと3回は、正規のみ「給食室の清掃について」実施。	保育課 (現こども園課)
		新規採用給食関係者研修会	年5回開催	4回 58名参加	新規採用調理員を対象に、衛生管理について研修した	4回 28名参加	新規採用調理員を対象に、衛生管理について研修した	4回 50名参加	新規採用調理員を対象に、衛生管理について研修した	B. 計画通り進展		保育課
		調理研修会	年3回開催	3回 93名参加	公私立保育園給食業務担当者を対象に調理実習を行なった	3回 94名参加	公私立保育園給食業務担当者を対象に調理実習を行なった	3回 90名参加	公私立保育園給食業務担当者を対象に調理実習を行なった	B. 計画通り進展		保育課
		給食室巡回、指導	60回90園	61回 86園	1年通して巡回を行ない、給食室内の衛生管理、事務等の支援を行った。	278回	1年通して巡回を行ない、給食室内の衛生管理、事務等の支援を行った。回数が増えたのは、非常勤調理員のみで運営する給食室について、栄養士を増員し担当保育園を持って月1回程度、各々巡回を行なったため	350回	1年通して巡回を行ない、給食室内の衛生管理、事務等の支援を行った。	B. 計画通り進展		保育課 (現こども園課)
		基準献立作成用料理カード等検討会	年4回開催	5回	正規調理員の代表と保育課栄養士が参加し、料理カードの整備を行なった	7回	正規調理員の代表と保育課栄養士が参加し、料理カードの整備を行なった	4回	正規調理員の代表と保育課栄養士が参加し、料理カードの整備を行なった	B. 計画通り進展		保育課 (現こども園課)
		給食管理・栄養管理業務担当栄養士研修会	H23年度より年2回開催	2回	私公立栄養士を対象に、給食についての情報交換を行ないながら、テーマを決めて各保育園の実施したこと等をまとめ、今後の参考にするための資料を作成した	2回	私公立栄養士を対象に、給食についての情報交換を行ないながら、テーマを決めて各保育園の実施したこと等をまとめ、今後の参考にするための資料を作成した	2回	私公立栄養士を対象に、給食についての情報交換を行ないながら、テーマを決めて各保育園の実施したこと等をまとめ、今後の参考にするための資料を作成した	B. 計画通り進展		保育課 (現こども園課)
		卸売市場品質管理高度化マニュアル		各団体においてマニュアルに沿った品質管理を実施した。	マニュアルに沿った実施状況の確認及び啓発の為、報告書の提出及び講習会を実施した。品質管理高度化を推進する為、水産低温卸売場を設置した。	各団体においてマニュアルに沿った品質管理を実施した。	マニュアルに沿った取組状況確認の為、報告書の提出を求めた。品質管理高度化推進の為、市場内への鳥類の侵入を防止措置として忌避剤の塗布を実施した。	各団体においてマニュアルに沿った品質管理を実施する。	品質管理高度化推進の為、市場内への鳥類の侵入を防止措置として忌避剤の塗布、防鳥ネット及びプロテクター（剣山型）の設置を実施した。	B. 計画通り進展		中央卸売市場

I 食の安全の確保のための施策

体系		事業名	目標値	H24年度		H25年度		H26年度		達成度	解説	担当部署	
				実績	解説	実績	解説	実績	解説				
		学校給食事務説明会の開催	年2回開催	年2回(年度初めと2月に実施。)	給食主任を対象に給食事務や衛生、食に関する指導について説明	年2回(4月10日と2月に実施) 4月177人参加 2月延155人参加	給食当番の健康管理等についても別途通知。	年2回(4月10日と2月に実施)	給食主任や給食事務担当者を対象に、食中毒予防・異物混入予防・食物アレルギー対応・食に関する指導等を説明。	B. 計画通り進展		学校給食課 学校教育課	
		学校給食衛生責任者研修会の開催	年1回(年度初め)	1回(4月)	各給食施設の衛生責任者を対象に食中毒防止や衛生意識の向上を図るため、保健所食品衛生課職員による講話等実施	年1回(4月5日に実施) 51人参加	各給食施設の衛生責任者を対象に、食中毒の予防等の講話(食品衛生課による)やグループ研修を実施。	年1回実施(4月4日に実施)	各給食施設の衛生責任者だけでなく、新規採用の非常勤調理員も対象として、食中毒防止や衛生意識の向上を図る。			学校給食課 学校教育課	
		学校給食衛生研修会「食中毒防止講習会」の開催	年1回開催	1回(7月) 304人参加	調理従事者全員が対象 保健所食品衛生課職員による講話及び外部講師による講話	年1回(7月29日に実施) 299人参加	学校給食調理従事者全員を対象とする。 保健所食品衛生課職員による講話及び伝達講習	年1回(7月に実施) 228人参加	外部講師による講話。		B. 計画通り進展		学校給食課 学校教育課
		学校給食栄養士研修会の開催	年4回開催	4回	第1回:事務連絡等 第2回:『韓国の食・オンマの味』～韓国人にとって「食」とは他 第3回:食農体験の実施(里芋の収穫体験)他 第4回:来年度の活動予定、模擬授業他	年4回(4月、8月、12月、3月に実施) その他に衛生研修会や臨時研修会を実施。	第1回:事務連絡等 第2回:講演「おいしく食べて健康に」「おいしいね。まずはおだして」「五感を使って食べること」 第3回:伝達講習、模擬授業等 第4回:各種報告、衛生管理等に関する調査研究の報告等	年4回	第1回:事務連絡等 第2回:講演「健康寿命を延ばす食生活・生活習慣」「学校給食レシピの紹介」 第3回:講演「学校給食摂取基準について」 第4回:「各教科における食に関する授業づくりのポイント」		B. 計画通り進展		学校給食課 学校教育課
		食品等事業者に対する衛生講習会の開催	239回(3年間)	衛生講習会112回実施		衛生講習会104回実施		衛生講習会90回実施	講習会開催依頼に100%対応した。		B. 計画通り進展	講習対象となる各組合加入者の減少が考えられる。他自治体と比べ、実施回数は高い。	食品衛生課
	(4) 食品等の収去検査体制を強化します。	食品等の収去検査体制の強化	年度ごと協議検討	837検体	H24年度監視指導計画729検体。予定を大きく上回ったのは、放射性物質の検査が増えたため。	831検体	H25年度監視指導計画849検体	711検体	H25年度監視指導計画739検体	B. 計画通り進展	環境保健研究所と連携、調整しながら計画し、進めている。検体数は減少しているが、体制を変えて収去体制を強化している。	食品衛生課	
Iー3 流通・販売段階における監視指導を実施します。	(1) 輸入食品など管轄外流通食品の収去及び監視指導を実施し、安全の確認に努めます。	輸入食品や広域流通食品の収去検査の実施	220件(輸入25件)	297検体(輸入26検体)		277検体(輸入26検体)		361検体(輸入98検体)	A. 計画以上の進展	輸入食品や広域流通食品は検体提出状況によるため件数を確定するのは難しいが、検体数は目標より多いのでAとした。	食品衛生課		
		加工食品の残留農薬スクリーニング試験	0件になっている見込み	輸入品60検体	H24年度監視指導計画50検体。流通センター耐震工事の為少なめに設定した。	輸入品100検体	H25年度監視指導計画100検体	輸入品80検体	H26年度監視指導計画80検体	B. 計画通り進展	監視指導計画に従い進めている。中国産冷凍餃子事件の風評被害が落ち着いたこと、他自治体も検体数を減らしていることにより徐々に件数を減らしている途中。	食品衛生課	



## I 食の安全の確保のための施策

体系		事業名	目標値	H24年度		H25年度		H26年度		達成度		解説	担当部署
				実績	解説	実績	解説	実績	解説				
		放射性物質の食品への影響調査	平成23年度より状況に応じて実施	125検体	平成23年度から開始	121検体	H25年度監視指導計画120検体	121検体		B. 計画通り進展	平成23年度から開始した事業。監視指導計画通りに進めている。他の自治体の検査結果、出荷制限の状況を考慮して検査を実施している。	食品衛生課	
		市内の食品衛生法違反措置状況について報道関係者への情報提供やホームページへの掲載		3件	食中毒件数3件（ノロウイルス3件）	5件	食中毒件数5件（ノロウイルス3件、カンピロバクター1件、きのこ1件）	7件	食中毒件数7件（ノロウイルス2件、腸管出血性大腸菌1件、サポウイルス1件、ヒスタミン1件、不明2件）	B. 計画通り進展		食品衛生課	
	(2) いわゆる健康食品の買い上げ検査を実施します。	いわゆる健康食品の買い上げ検査	10件	10検体		10検体		10検体		B. 計画通り進展		生活衛生課	
	(3) 容器包装やおもちゃ等の買い上げ検査を実施します。	容器包装に有害物質が含有されていないかどうかの検査	30検体	30検体	H24年度監視指導計画30検体	30検体	H25年度監視指導計画30検体	30検体	H26年度監視指導計画30検体	B. 計画通り進展		食品衛生課	
	(4) 食品や健康食品及び機能性食品などについて速やかな情報収集、伝達、連携を図り、健康被害の未然防止と拡大防止に努めます。	飲食に起因する新たな危害が発生した場合の、詳細で正確なデータの提供		468検体	食中毒疑い等による検査	215検体	食中毒疑い等による検査を迅速に実施し、詳細で正確な成績書の提出に努めた	227検体	食中毒疑い等による検査を迅速に実施し、詳細で正確な成績書の提出に努めた	B. 計画通り進展		環境保健研究所	
		食品に関する感染症発生時の拡大防止		ノロウイルス18件、3類感染症7件の調査を実施。	疫学調査、衛生指導、健康観察指導などを実施。	ノロウイルス23件、3類感染症10件の調査を実施。	疫学調査、衛生指導、健康観察指導などを実施。	ノロウイルス20件、3類感染症223件の調査を実施	疫学調査、衛生指導、健康観察指導などを実施。	A. 計画以上の進展	安宿川化火大会集団食中毒（O157）の発生があった	保健予防課	
		市民からの食品衛生に関する苦情・相談の対応		7257件		5093件		4973件		B. 計画通り進展		食品衛生課	
		事業者、消費者に対し食品や飲食危害に関する情報を提供		2件	●7月から1か月間、「レバ刺し禁止」のマグネットを保健所の公用車に添付。 ●8月に浅漬けO-157注意喚起文書を施設宛に送付した。（449施設）	2件	●1月にアクリフーズの農薬混入事件の際、メールマガジンを通じて注意喚起した。また、高齢者福祉課、健康支援課、保育課、食生活改善推進協議会を通じて、包括支援センター、保育園などにパンフレットを4570枚配布。 ●1月に浜松の食中毒の際、市内のパンを製造している業者対象に講習会を行った。	5件	●豆あじにふぐ混入があったため、スーパーに対して注意喚起のチラシを配布 ●過去のデータから、よくある違反項目についてまとめたチラシを、スーパーに対して配布 ●浅漬けによる食中毒防止のためのチラシを配布 ●クドアやノロウイルスによる食中毒について、冠婚葬祭施設に対してチラシを配布 ●しらすへのふぐ混入に関する情報	A. 計画以上の進展	緊急的対応に力を入れていきたい。今後強化していきたい事業。	食品衛生課	
		食中毒事件等の速やかな公表		3件	食中毒件数3件（ノロウイルス3件）	5件	食中毒件数5件（ノロウイルス3件、カンピロバクター1件、きのこ1件）	7件	食中毒件数7件（ノロウイルス2件、腸管出血性大腸菌1件、サポウイルス1件、ヒスタミン1件、不明2件）	B. 計画通り進展	引き続き、速やかな公表ができるよう努める	食品衛生課	
	(5) 卸売市場などの食品保管施設・場所、デパートなどの食品販売施設等における食品の安全管理の指導を実施します。	デパート、スーパーマーケット等食品販売施設の監視指導の実施（ふきとり検査、スタンプ検査等）	11,000件	1682件		69件		570件		B. 計画通り進展	年度により重点的に監視する内容が違うため、大幅に件数が増え、目標値の設定を検討する必要がある。	食品衛生課	

I 食の安全の確保のための施策

体系		事業名	目標値	H24年度		H25年度		H26年度		達成度		解説	担当部署
				実績	解説	実績	解説	実績	解説				
I－4 試験・検査技術の 充実を図ります。	(1) 食品衛生検査施設の業務管理 要領（GLP）に則った検査を実施 します。	食品衛生検査施設の業務管理要領 （GLP）に則った検査の実施		・細菌検査129検 体 ・理化学検査278 検体	食品の収去検査	・細菌検査123検 体 ・理化学検査183 検体	食品の収去検査 をGLPに則り実 施した	・細菌検査88検体 ・理化学検査275 検体	食品の収去検査 をGLPに則り実 施した	B. 計画通り進展			環境保健研究所
	(2) 適切な項目の検討や食の安全 を確認する調査を実施します。	適切な項目の検討や食の安全を確 認する調査の実施		・妥当性評価8検 体 ・放射性物質の検 査149検体	・残留農薬・動物 用医薬品につい て、8食品におけ る試験法の妥当 性評価を行った ・放射能測定機器 を導入し、149検 体の検査を行っ た	・妥当性評価 9検体 ・放射性物質検査 357検体	・残留農薬・動物 用医薬品につい て、9食品におけ る試験法の妥当 性評価を行った ・放射性物質357 検体の検査を行 った	・妥当性評価 9検体 ・放射性物質検査 176検体	・残留農薬・動物 用医薬品につい て、9食品におけ る試験法の妥当 性評価を行った ・放射性物質176 検体の検査を行 った。				